

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

ひろさきライフ・イノベーション推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

弘前市

3 地域再生計画の区域

弘前市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

弘前市は、若者を育てる環境が整っているなかで、育った若者が活躍できる場が不足しており、地域外へ流出している。弘前大学の卒業生のうち、県内就職は3割程度で、市内就職は1割に満たない状況である。(※1)

一方で、弘前大学COIなどの先進的な取り組みは進んでおり、大手企業がビックデータを活用して、ビジネス化を図っている。

また、青森県は平均寿命が全国で最も短く、短命県返上に向けて全県で健康増進の取り組みを進めている。

弘前市で学んだ学生が弘前で活躍できる場を創出するとともに、健康増進の取り組みを進め、社会移動の減少と死亡数の減少につなげていくことが、当市の人口減少対策の課題である。

(※1) 国立大学法人弘前大学学生就職支援センター 卒業生地区別割合

《24年度》 青森県 30.5% (うち市内 8.4%)

《25年度》 青森県 34.5% (うち市内 8.8%)

4-2 地方創生として目指す将来像

【若者の状況】

弘前市は弘前大学医学部、弘前医療福祉大学を中心に医療・福祉に携わる若者の学ぶ環境が充実しており、高い専門性やスキルを身につけている学生が多く、平成22年度国勢調査においても医療・福祉分野に就業している就業

者の割合が全国より高くなっている。(※2)

一方で、市が弘前大学に委託して調査した「弘前市・つがる地域の大学生・企業の就職に関する意識調査」によると、医療福祉分野で需給のミスマッチが生じており、県外からの学生で市内就職を希望する学生を足止めさせる機能が弱いと指摘しているほか、弘前市人口ビジョンでは20歳から24歳の年齢階層の転出が多いことが明らかとなっている。(※3)

【大学・企業の状況】

市と弘前大学で平成17年から実施している岩木健康増進プロジェクトでコホート研究(延べ11,000名、健康情報600項目)を行い、健康指導を行うなどして住民の健康増進に取り組んできた。

そのビックデータを、弘前大学COI研究推進機構(認知症・生活習慣病研究とビックデータ解析の融合による画期的な疾病予兆発見の仕組み構築と予防法の開発拠点)では、疾病予兆法の開発、予兆因子を用いた予防法の開発、認知症サポートシステムの開発等に活用している。

弘前大学COIは、九州大学や京都府立医科大学がサテライトとして連携しているほか、大手企業(イオン、カゴメ、ライオン、楽天、シスメックス、GEヘルスケアジャパン等)も参画しており、産学官の連携体制が整っており、大手企業と地元企業の連携も進んできている。

また、再生医療製品の開発、製造及び販売を目的とする市内ベンチャー企業(ひろさきLI株式会社)が設立され、国際的競争力のある膝軟骨や脊椎軟骨などの再生治療関連製品開発がはじまり、製造拠点を神戸から弘前へ移転することが検討されている。

【青森県の取り組み】

青森県では、医工連携による地域医療の課題の解決に貢献する医療機器、プロテオグリカンをはじめとする地域資源を活用した健康食品や美容関連製品等により、ライフ関連産業の成長に取り組んでいる。

このように、地域全体で1億総活躍の実現に向けて、健康寿命の延伸、障がい者、難病患者、がん患者等の活躍支援の取り組みが進んでいる中で、ビックデータの活用、再生医療など世界最先端の健康立国への取り組みも進んできている。

このような状況の中で、弘前大学医学部附属病院を中心にした地域の充実した医療機関や弘前大学COIの取り組みなど市の強みを活かして、関係機関が連携して先端医療を提供する医療機関や健康医療産業の集積を進めるこ

とにより、弘前で学んだ若者が弘前で活躍できる環境が整い、雇用の創出による地元定着につなげるものである。また、一億総活躍社会の実現に向けて、東北地方の先端的な医療を提供する体制を整えるものである。

なお、青森県とも連携を図るとともに、弘前大学 COI の拠点都市としての強みを活かして差別化も図り、県全体へ波及効果のある取り組みを進めていく。

さらに、健康医療産業分野は雇用吸収力が高く、特に女性の雇用効果が高いことから、当市で学んだ女性の雇用の受け皿につなげ、女性の活躍を推進するものである。

(※2) 就業者のうち医療・福祉分野の割合 全国 10.3%、青森県 11.7%、弘前市 14.4%

(※3) 国立社会保障・人口問題研究所人口推計 20～24歳の社会動態
2010→2015年 △1,753人、2015→2020年 △1,065人、2020→2025年 △941人、2025→2030年 △787人

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数(累計)	0件	6件	2件	7件
弘前大学COI参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	0件	0件	2件	0件
先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	0件	0件	1件	3件

	KPI増加分の累計
--	-----------

再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数（累計）	15件
弘前大学COI 参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	2件
先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	4件

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

弘前大学COIに参画している大手企業と地元企業の連携による新たな産業創出を促進するとともに、医療機関が先端的な医療に取り組むことを促進する。

また、地域の医療・福祉分野で学んでいる若者に対し、地域で提供している先端的な医療の成果を伝え、地元定着を図る。

そして、検診、健康増進、再生医療、先端リハビリ等を集約した東北の先端医療拠点化を目指し、地域内外の住民の健康増進を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

弘前市

② 事業の名称：ひろさきライフ・イノベーション推進事業

③ 事業の内容

- ・ 大学病院、民間医療機関、行政等が連携して、再生医療や先端リハビリ等を提供する先端医療の拠点化に向けた体制整備を支援
- ・ 再生医療や先端リハビリ等の取り組みを市民や医療関係者等に周知することを目的に開催するシンポジウム等に要する経費を支援
- ・ 再生医療や先端リハビリ等に取り組む人材の育成に要する経費を支援
- ・ 弘前大学COIに参画している大手企業と地元企業が連携して、ビッグデータ等を活用して、新たな産業創出を図るための研究開発・技術

開発経費等を支援

- ・地域の強みである充実した健康医療分野を強みに、地域での新たな投資を促進するため、地域の整備エリア等を選定

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

企業連携により創出する新たな産業創出による収益と先端医療の提供による医療収入の確保により自立化が図られる。また、膝軟骨等の再生医療製品の開発、製造を進めているベンチャー企業（ひろさきLI株式会社）の製造拠点を当市に移すことにより、市での事業収入、雇用確保が図られる。

【官民協働】

弘前大学、弘前大学COIに参画している大手企業（花王、ライオン、協和発酵、楽天等）と地元企業（マルマンコンピューターサービス、東北化学薬品、栄研等）が、連携して健康増進対策、産業創出に取り組んでいること。

弘前大学医学部附属病院と地域医療機関（弘前記念病院）が連携して、先端医療の提供を検討していること。

また、市と弘前大学医学部が連携して、先端医療の研究・開発を促進するため、学生等に対し先端的な医療等の講義等を実施する。

【政策間連携】

新たな産業創出により地域で学んだ若者の活躍できる場を創出するとともに、先端的な健康医療体制が充実することにより、地域内外の健康増進につながっていく。

【地域間連携】

特になし

【その他の先導性】

特になし

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数(累計)	0件	6件	2件	7件
弘前大学COI参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	0件	0件	2件	0件
先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	0件	0件	1件	3件

	KPI増加分の累計
再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数(累計)	15件
弘前大学COI参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	2件
先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	4件

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

外部組織による検証は、弘前市総合計画審議会により、個々の事業についてPDCAサイクルによる検証を平成29年7月頃実施する予定である。

市議会による検証は、平成28年度決算報告とあわせて検証することとし、平成29年9月の見込である。

【外部組織の参画者】

産：つがる弘前農業協働組合、弘前商工会議所、弘前観光コンベンション協会

学：弘前大学、弘前学院大学

金：青森銀行、みちのく銀行

労：弘前大学(教育推進機構キャリアセンター)

言：アップルウェーブ株式会社

その他：弘前市社会教育協議会、弘前市社会福祉協議会

【検証結果の公表の方法】

検証結果は市ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 120,500千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成31年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) ひろさきライフ・イノベーション戦略策定事業

事業概要：弘前大学医学部附属病院を中心とした充実した医療機関や弘前大学C O I 研究推進機構などの当市の強みを活かして、健康医療産業の集積に向けて「ひろさきライフ・イノベーション戦略」を策定し、若い世代の雇用の創出を図るもの。

実施主体：青森県弘前市

事業期間：平成28年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成31年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

弘前市総合計画審議会による個々の事業についてP D C Aサイクルによる検証を実施する。

【外部組織の参画者】

産：つがる弘前農業協働組合、弘前商工会議所、弘前観光コンベンション協会

学：弘前大学、弘前学院大学

金：青森銀行、みちのく銀行

労：弘前大学(教育推進機構キャリアセンター)

言：アップルウェーブ株式会社

その他：弘前市社会教育協議会、弘前市社会福祉協議会

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数(累計)	0件	6件	2件	7件
弘前大学C O I参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	0件	0件	2件	0件
先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	0件	0件	1件	3件

	KPI増加分の累計
再生医療設備や先端リハビリ等の導入件数（累計）	15件
弘前大学COI参画企業と地元企業の連携による研究・開発件数	2件
先端リハビリ等により、身体機能が改善された件数	4件

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

弘前市が毎年度各指標の集計を行い、翌年7月を目途に弘前市総合計画審議会において結果について評価を行い、市のホームページで公表する。